

## 埼玉県社会福祉事業団 施設一覧表（平成22年度）

- 埼玉県指定管理施設 上里学園、おお里、いわつき、嵐山郷、障害者交流センター 5施設  
 皆光園歯科診療所、そうか光生園歯科診療所、あさか向陽園歯科診療所 3診療所
- 北本市指定管理施設 あすなろ学園 1施設
- 事業団施設 花園、あげお、皆光園、そうか光生園、あさか向陽園 5施設

（網掛けが指定管理施設）

名称	種別	利用定員(人)	職員定数(人)	所在地	備考	
本部事務局		—	6	比企郡嵐山町古里 1848		
上里学園	児童養護施設	140	32	児玉郡上里町三町 183		
おお里	児童養護施設	116	27	熊谷市中恩田 289		
いわつき	児童養護施設	88	23	さいたま市岩槻区徳力 206	相談支援事業	
	乳児院	9	4			
花園	知的障害児施設	30	30	深谷市小前田 2691		
	知的障害者更生施設	90				
	知的障害者通所授産施設	20				
あげお	障害者支援施設	生活介護 100 (うち通所 20)	30	上尾市平塚 820	相談支援事業	
		施設入所支援 80				
嵐山郷	知的障害児施設	25	230	比企郡嵐山町古里 1848	療育拠点施設 事業	
	障害者支援施設	生活介護 329 施設入所支援 329				
	重症心身障害児施設	60			地域生活定着 支援事業	
	障害者歯科診療	—				3
	保育所	45				4
皆光園	障害者支援施設	生活介護 50	21	深谷市人見 1998	聴能訓練 (委託事業)	
		施設入所支援 50				
	デイサービスセンター	20	1			
	障害者歯科診療所	—	3			
そうか光生園	身体障害者療護施設	50	20	草加市柿木町 1215-1	相談支援事業	
	地域活動支援センター	15	1		聴能訓練	
	障害者歯科診療所	—	3		(委託事業)	
あさか向陽園	身体障害者授産施設	40	12	朝霞市青葉台 1-10-60		
	身体障害者通所授産施設	20				
	知的障害者通所授産施設	20				
	障害者歯科診療所	—				3
障害者交流センター	身体障害者福祉センター A 型	—	19	さいたま市浦和区大原 3-10-1		
あすなろ学園	知的障害者通所授産施設	50	8	北本市中丸 10-54-2		
合計		入所 1107 通所 210	480			

# 平成22年度 埼玉県社会福祉事業団 事業報告書

## 1 本部事務局

本部事務局は、理事長を補助し、理事会・評議員会の運営及びその決定に基づく各事業の調整、人事、財務を適切に実施するとともに、県・市町村等との協議・連絡調整を行った。

### 1 理事会・評議員会の開催

事業団の事業計画、予算、決算の決定及び事業の状況報告等を行うため、次のとおり理事会を開催した。

#### (1) 第1回理事会

- ア 期 日 平成22年5月31日(月)
- イ 場 所 ときわ会館(さいたま市)
- ウ 出席者 理事長ほか 11人
- エ 議決事項
  - (ア) 平成21年度事業報告及び決算について
  - (イ) 諸規程の一部改正について
  - (ウ) 評議員の選任について

#### (2) 第2回理事会

- ア 期 日 平成23年3月25日(金)
- イ 場 所 さいたま共済会館(さいたま市)
- ウ 出席者 理事長ほか 11人
- エ 議決事項
  - (ア) 障害者自立支援法に基づく新体系への移行について
  - (イ) 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団定款の一部変更について
  - (ウ) 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団職員給与規程の一部改正について
  - (エ) 指定管理に係る基本協定及び年度協定の締結について
  - (オ) 平成23年度事業計画及び予算について
  - (カ) 平成22年度補正予算について
  - (キ) 評議員の選任について
  - (ク) 副理事長の選任について
  - (ケ) 施設長の任命について

## 2 監事監査の実施

業務執行状況及び会計経理の適正を期するため、監事監査を次のとおり実施した。

監事監査実施日	受 検 施 設
5月11日(火)	おお里、花園、皆光園、あさか向陽園
5月15日(土)	いわつき、あげお、そうか光生園、障害者交流センター
5月20日(木)	本部事務局
5月21日(金)	上里学園、嵐山郷、本部事務局

## 3 各施設の管理

施設長会議(毎月1回)や施設巡回指導などを通じて、理事会が決定する事業計画を円滑に促進させるとともに、各施設で生じた課題等に対処した。

## 4 重要課題への対応

### (1) 指定管理の継続

上里学園、嵐山郷、障害者交流センター、皆光園歯科診療所、そうか光生園歯科診療所及びあさか向陽園歯科診療所について、平成23年度から平成27年度までの5年間の指定管理者として、埼玉県から引き続き指定を受けた。

## (2) 児童福祉事業

上里学園、おお里及びいわつきの児童養護施設において、①就職に向けたインターンシップ事業(企業での就労体験)、②民間企業OBによる就職支援事業、③施設退所後のアフターフォロー事業の3つの事業を新たに実施した。

## (3) 障害者福祉事業

短期入所について、そうか光生園で3床、嵐山郷重心棟で3床、合計6床の定員増を行い、在宅障害者の受入れ拡大を図った。

## (4) 利用者支援の充実

役員や本部職員が各施設を巡回し、夜間時の職員配置や処遇状況、利用者の問題点や兆候の把握状況などを点検・指導した。

## 5 人事管理

### (1) 人事配置

質の高いサービスを効率的に提供するため、専門性の向上や業務の特性に配慮した適材適所の人事配置を実施した。

なお、平成22年度における職員の人事異動については、役付職員47人、一般職員18人の計65人の規模で実施した。

### (2) 職員研修

職員の職務遂行能力及び資質の向上を図ることを目的に、次のとおり研修を実施した。

#### ア 基本研修

研修名	回数	参加者数	研修名	回数	参加者数
採用時研修Ⅰ	1回	11人	主任研修(5年以上)	3回	73人
採用時研修Ⅱ	1回	9人	新任管理監督者研修	1回	6人
契約職員研修	2回	54人	管理・監督者研修	4回	91人
初級研修	1回	14人	新任主任研修	1回	15人

#### イ 特別研修

研修名	回数	参加者数	研修名	回数	参加者数
ディベート研修	2回	19人	薬の基礎知識研修	1回	25人
虐待防止研修	4回	91人			

## 6 福利厚生

(1) 契約職員の処遇改善と安定的確保に資するため、賃金単価の引き上げを行った。

(2) インフルエンザ対策として職員の予防接種費用を補助した。

## 7 財務管理

社会福祉法人会計基準に基づく会計規程により、適正な財務管理に努めたほか、予算・決算の開示による透明性の確保に努めた。

また、談合の防止や調達における透明性・競争性を確保するため、業務委託に関する一般競争入札を実施した。

## 8 その他

### (1) 外部監査

県指定出資法人外部監査実施要領に基づき、公認会計士を監査人とする外部監査を実施し、会計書類の正確性と経営の透明性の確保に努めた。

### (2) 表彰

- ア 埼玉県社会福祉大会知事表彰 17人(職員13、ボランティア団体1、個人3)
- イ 埼玉県社会福祉大会会長表彰 22人(職員14、ボランティア団体5、個人3)
- ウ 全国社会福祉事業団協議会職員永年勤続表彰 12人
- エ 職員永年勤続等表彰 19人(永年勤続表彰12、ボランティア団体3、個人4)
- オ 全国社会福祉協議会会長表彰 19人(永年勤続表彰19)

## 2 上里学園

### 1 概要

#### (1) 児童の自立支援

①就職に向けたインターンシップ事業(企業での就労体験)、②民間企業OBによる就職支援事業、③施設退所後のアフターフォロー事業の3つの事業を新たに実施した。

#### (2) 特別な支援を要する児童の支援

被虐待児童など、対応が困難で特別な支援を要する児童の支援に当たった。

#### (3) 一時保護児童の受入れ

児童相談所機能を補完して一時保護児童の受入れを行った。

### 2 利用者状況

#### (1) 入所児童の受託状況

(人)

定員	月 区分	前年度末	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
			140	入所児童	—	6	2	0	0	0	2	0	0	2	0
退所児童	—	1		1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	15	21
在所児童	112	117		118	117	115	115	117	117	116	118	118	118	109	—

#### (2) 特別な支援を要する児童

(人)

被虐待児童	知的・発達・精神障害児童
87	31

#### (3) 一時保護児童の受託状況

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入 人数	※5	4	6	2	7	4	6	0	0	0	3	3	40
一時保護 児童数	5	6	6	5	7	6	6	4	1	0	3	4	53
延入日数	102	76	96	33	64	78	102	109	1	0	34	95	790

※ 4月は3月からの継続を含む。

#### (4) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

医療機関への受診状況は次のとおりである。

(回)

区分	科目	内科	外科	耳鼻科	歯科	皮膚科	眼科	精神・ 神経科	その他	計
		回数	685	73	68	234	172	57	84	56
内 訳	嘱託医	647	0	0	0	0	0	0	0	647
	その他	38	73	68	234	172	57	84	56	782
入院(件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 3 安心・安全の確保

#### (1) 防災対策

防災安全委員会及び保健食事委員会により施設内の安全衛生面の点検を実施した。

また、防災訓練については、総合防災訓練、夜間想定訓練などを含め、毎月1回実施するとともに、職員の情報伝達訓練を行った。

(2) 交通事故防止

毎朝の登校指導等をととして、児童に交通ルール遵守の習慣を身につけられるよう支援し、交通事故防止に努めた。

(3) 防犯体制の強化

小学生の登下校の引率や見守り、自転車登校の中高生に対しては注意喚起を行い、登下校時の安全を確保した。また、防犯ブザーの携行を促し防犯意識の高揚を図った。

4 利用者支援

(1) インターンシップ事業

児童の退所後の自立を促進するため、施設周辺の協力企業と連携して児童の会社見学及び職場体験を実施した。

職場体験参加児童数 (人)	参加延べ日数 (日)	受入企業数 (社)
5	12	2

(2) 児童自立サポーターズによる就職支援事業

民間企業OBで構成するサポーターズの協力により、模擬面接の実施や社会人としての心構えの指導など就職の支援をした。

模擬面接延べ人数 (人)	社会人としての心構え指導人数 (人)
22	7

就職・進学状況

	高校3年生入所者数 (人)	合格者数 (人)	割合
就職	7	6 ※	85.7%
進学	4	4	100.0%
計	11	10	90.9%

※ 合格者は正規採用者の人数

(3) 中学校卒業生 10 人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考	
全日制高等学校	男	1	県立熊谷農業高等学校	在園
		1	県立熊谷工業高等学校	在園
		1	県立児玉高等学校	在園
		1	県立児玉白楊高等学校	在園
		1	県立川越工業高等学校	退所
	女	1	県立熊谷農業高等学校	在園
		1	県立深谷商業高等学校	在園
		1	県立深谷第一高等学校	在園
		1	県立児玉白楊高等学校	在園
		1	県立鴻巣女子高等学校	在園

(4) 高等学校卒業生 11 人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考	
進学	男	1	埼玉工業大学	退所
	女	1	高崎健康福祉大学短期大学部	退所
		2	埼玉福祉専門学校 駿台トラベル&ホテル専門学校	退所
就職	男	4	鉄工業、飲食業2、 ホームセンター (生活ホーム利用)	退所
	女	3	製造業、飲食業、自衛隊	退所

(5) 退所児童に対するアフターフォロー事業

施設で対応する窓口を明確にし、退所後の児童の状況の把握、相談や課題の解決などの支援を行った。

(回)

相談者	アフターフォロー実施内容						小計	本人以外計	合計	
	電話	来園	勤務先訪問	家庭訪問	その他					
					メール	その他				
退所児童(本人) (39人)	157	109	8	35	371	44	724	89	813	
本人以外	保護者	35	1	0	0	5	0			41
	児相	8	0	0	0	0	0			8
	職場	2	0	0	0	0	0			2
	その他	36	0	0	0	0	2			38

(6) 心理療法の実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士、心理担当職員による心理療法を行った。

区分	実人数(人)	延べ回数(回)	職員面接(回)
精神・神経科	7	80	2
臨床心理士等	18	372	132

(7) ホームステイ事業の状況

家庭生活経験の少ない児童に対し、ホームステイ事業を積極的に行い、家庭生活の体験を通して社会性が身につくように支援した。

児童数(人)	参加延べ日数(日)
6	40

(8) ふれあい里親の状況

児童が夏季・冬季の休みを利用して里親宅に宿泊体験し、受入れ家族の御理解のもと地域との交流を図り、地域の方にも児童福祉に対する理解を深めていただいた。

参加児童数(人)	参加延べ日数(日)
8	24

(9) 主な行事の実施状況

月	実施事項等
22.4	お花見昼食会
5	プロ野球観戦
7	納涼祭
8	サッカー観戦、一泊旅行、球技大会
9	食育事業…団子づくり・調理実習
10	いも掘り体験事業
11	食育事業…食事バランスガイド・調理実習
12	食育事業…うどん作り、もちつき大会、鐘つき
23.1	初詣
2	ボランティア等感謝の集い
3	卒園生テーブルマナー教室、卒業を祝う会

(10) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

- ・ 問題兆候への「気づき」  
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育  
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

## 5 地域社会との共生

### (1) 地域住民との交流

地域と共に歩む施設として、地域住民やスポーツ少年団の活動・集会場所として、会議室やグラウンドの提供を行い、さらに地域との共催で納涼祭を行うなど地域住民との交流を図った。

### (2) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)	主 な 内 容
169	行事関係ボランティア 遊びボランティア

### (3) 実習生の受入れ

次世代の福祉を担う人材の養成という観点から、下記のとおり実習生を積極的に受け入れた。

区 分	実 人 数 (人)	延 べ 日 数 (日)
保育士実習	177	2,012
社会福祉士実習	10	227
その他の実習※	2	40
計	189	2,279

※その他の実習は埼玉工業大学 臨床心理士実習

### (4) 見学者の受入れ

受入延べ人数 (人)
7

## 6 施設・設備の維持管理

- (1) 管理棟・居住棟の耐震化等大規模改修を実施した。
- (2) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。
- (3) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

## 7 職員研修

- (1) 事例検討会や食育実践に係る研修、性教育に係る研修を実施した。
- (2) 県立児童養護施設合同の研修会を開催した。

### 3 おお里

#### 1 概要

##### (1) 児童の自立支援

①就職に向けたインターンシップ事業(企業での就労体験)、②民間企業OBによる就職支援事業、③施設退所後のアフターフォロー事業の3つの事業を新たに実施した。

##### (2) 特別な支援を要する児童の支援

被虐待児童など、対応が困難で特別な支援を要する児童の支援に当たった。

##### (3) 一時保護児童の受入れ

児童相談所機能を補完して一時保護児童の受入れを行った。

#### 2 利用者状況

##### (1) 入所児童の受託状況

(人)

定員	月 区分	前年度末	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		116	入所児童	—	9	0	2	1	0	3	1	1	1	0	0
退所児童	—		0	3	1	1	1	1	1	1	0	2	1	12	24
在所児童	107		116	113	114	114	113	115	115	115	116	114	113	104	—

##### (2) 特別な支援を要する児童

(人)

被虐待児童	知的・発達・精神障害児童
99	20

##### (3) 一時保護児童の受託状況

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入 人数	※4	0	3	7	4	3	5	1	2	0	4	1	34
一時保護 児童数	4	2	3	9	6	6	7	6	5	5	7	5	65
延入日数	28	14	52	133	149	84	119	127	109	133	45	101	1,094

※ 4月は3月からの継続を含む。

##### (4) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

医療機関への受診状況は次のとおりである。

(回)

区分	科目	内科	外科	耳鼻科	歯科	皮膚科	眼科	精神・ 神経科	その他	計
	回数		411	100	61	186	115	95	125	16
内訳	嘱託医	20	0	0	0	0	0	0	0	20
	その他	391	100	61	186	115	95	125	16	1,089
入院(件)		0	0	1	0	0	0	0	0	1

※ 入院内訳： 耳の腫れ(化膿) 切開し排膿(1件)

### 3 安心・安全の確保

#### (1) 防災対策

防災安全委員会及び保健食事委員会により施設内の安全衛生面の点検を実施した。

また、防災訓練については、総合防災訓練、夜間想定訓練などを含め、毎月1回実施するとともに、職員の情報伝達訓練を行った。

(2) 交通事故防止

毎朝の登校指導等をととして、児童に交通ルール遵守の習慣を身につけられるよう支援し、交通事故防止に努めた。

(3) 防犯体制の強化

小学生の登下校の引率や見守り、自転車登校の中高生に対しては注意喚起を行い、登下校時の安全を確保した。また、防犯ブザーの携行を促し防犯意識の高揚を図った。

#### 4 利用者支援

(1) インターンシップ事業

児童の退所後の自立を促進するため、施設周辺の協力企業と連携して児童の会社見学及び職場体験を実施した。

職場体験参加児童数 (人)	参加延べ日数 (日)	受入企業数 (社)
4	9	3

(2) 児童自立サポーターズによる就職支援事業

民間企業OBで構成するサポーターズの協力により、模擬面接の実施や社会人としての心構えの指導など就職の支援をした。

模擬面接延べ人数 (人)	社会人としての心構え指導人数 (人)
20	4

就職・進学状況

	高校3年生入所者数 (人)	合格者数 (人)	割合
就職	6	6	100%
進学	1	1	100%
計	7	7	100%

(3) 中学校卒業生14人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考
全日制高等学校	男 2	県立進修館高校	在園
	女 1	県立進修館高校	在園
	女 1	県立上尾橋高校	在園
	女 2	県立妻沼高校	在園
	女 2	県立熊谷商業高校	在園
	女 1	県立熊谷工業高校	在園
	男 2	県立特別支援学校 (羽生ふじ・東松山)	在園
家庭引取り	女 1	県立熊谷農業高校	退所
	女 1	未定 (就職希望)	調整中
	男 1	就職 造園業	退所

(4) 高等学校卒業生7人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考
就職	女 1	特別養護老人ホーム	退所
	女 1	製本会社	退所
	男 1	訪問介護事業所	退所
	男 1	飲食業 (調理)	退所
	女 2	スーパーマーケット	退所
進学	女 1	日本社会事業大学	退所

(5) 退所児童に対するアフターフォロー事業

施設で対応する窓口を明確にし、退所後の児童の状況の把握、相談や課題の解決などの支援を行った。(回)

相談者	アフターフォロー実施内容						小計	本人以外計	合計
	電話	来園	勤務先訪問	家庭訪問	その他				
					メール	その他			
退所児童(本人) (76人)	533	211	5	12	61	27	849	190	1,039
本人以外	保護者	41	3	0	0	1	45		
	児相	31	1	0	0	0	32		
	職場	8	1	0	0	1	10		
	その他	86	4	0	0	0	13		

(6) 心理療法の実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士、心理担当職員による心理療法を行った。

区分	実人数(人)	延べ回数(回)	職員面接(回)
精神・神経科	14	125	31
臨床心理士等	77	468	792

(7) ホームステイ事業の状況

家庭生活経験の少ない児童に対し、ホームステイ事業を積極的にを行い、家庭生活の体験を通して社会性が身につくように支援した。

児童数(人)	参加延べ日数(日)
14	200

(8) 親子訓練棟の活用

家族再統合に向けた親子の宿泊・面会や高校生の自活に向けた宿泊訓練に活用した。

(9) 主な行事の実施状況

月	実施事項等
22.4	開園記念行事
5	各階行事バーベキュー
6	ジャガイモ収穫
7	天王様神輿かつぎ
8	納涼祭、宿泊旅行、マンガ絵画展、球技大会
10	サッカー観戦
11	ラーメン店招待、サッカー観戦
12	餅つき
23.1	初詣
3	卒園行事

(10) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック  
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」  
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

- 職員への面談と教育  
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

## 5 地域社会との共生

### (1) 地域住民との交流

中恩田地区など近隣で開催される行事への児童の参加や、炊き出し訓練を地域住民と行うこと等を通して交流を深めた。

### (2) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)	主 な 内 容
744	行事関係ボランティア、遊びボランティア

### (3) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数 (人)	延 べ 日 数 (日)
保育士実習	145	1,710
社会福祉士実習	14	174
その他の実習	3	51
計	162	1,935

※その他の実習は埼玉工業大学 臨床心理士実習

### (4) 見学者の受入れ

受入延べ人数 (人)
105

## 6 施設・設備の維持管理

(1) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

- ア 備蓄倉庫までの通路舗装・厨房東側マンホール修繕
- イ 非常用照明、バッテリー不良修繕
- ウ 厨房給気口設置・廊下側網戸交換
- エ 受水槽塗装
- オ 児童居室照明器具交換

(2) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

## 7 職員研修

- (1) 大学と連携し、処遇困難児童等に係る事例研究を実施した。
- (2) 県立児童養護施設合同の研修会を開催した。

## 4 いわつき

### 1 概要

#### (1) 児童の自立支援

①就職に向けたインターンシップ事業(企業での就労体験)、②民間企業OBによる就職支援事業、③施設退所後のアフターフォロー事業の3つの事業を新たに実施した。

#### (2) 特別な支援を要する児童の支援

被虐待児童など、対応が困難で特別な支援を要する児童の支援に当たった。

#### (3) 一時保護児童の受入れ

児童相談所機能を補完して一時保護児童の受入れを行った。

### 2 利用者状況

#### (1) 入所児童の受託状況

##### ア 児童養護施設

(人)

定員	月 区分	前年度末	月												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
88	入所児童	—	2	3	5	0	0	0	2	2	1	0	1	1	17
	退所児童	—	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	15	19
	在所児童	76	77	80	84	84	83	83	85	87	88	88	88	74	—

##### イ 乳児院

(人)

定員	月 区分	前年度末	月												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
9	入所児童	—	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4	0	0	7
	退所児童	—	1	0	0	0	1	0	2	0	1	2	0	2	9
	在所児童	9	8	9	9	9	8	9	7	7	7	9	9	7	—

#### (2) 特別な支援を要する児童

(人)

被虐待児童	知的・発達・精神障害児童
67	25

#### (3) 一時保護児童の受託状況

##### ア 児童養護施設

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入 人数	2	3	2	5	10	9	4	2	1	1	2	4	45
一時保護 児童数	2	3	5	6	10	10	12	6	3	1	3	5	66
延人日数	13	16	70	56	99	123	160	131	47	4	40	116	875

##### イ 乳児院

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入 人数	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	4
一時保護 児童数	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	4
延人日数	0	0	0	1	0	3	8	11	0	0	0	0	23

#### (4) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

医療機関への受診状況は次のとおりである。

##### ア 児童養護施設

(回)

区分	科目	内科	外科・整形	耳鼻科	歯科	皮膚科	眼科	精神・神経科	その他	計
回数		289	139	72	203	179	51	68	47	1,048
内訳	嘱託医	54	0	0	0	0	0	0	0	54
	その他	235	139	72	203	179	51	68	47	994
入院(件)		1	0	0	0	0	1	0	0	2

※その他内訳：泌尿器科、婦人科など

※入院内訳：心臓カテーテル検査入院（4日）、眼瞼裂宿小形成手術（8日）

##### イ 乳児院

(回)

区分	科目	内科	外科・整形	耳鼻科	歯科	皮膚科	眼科	精神・神経科	その他	計
回数		105	0	24	5	4	4	0	78	220
入院(件)		1	0	0	0	0	0	0	0	1

※ その他内訳：脳神経外科、脳外科、発達外来など

※ 入院内訳：左ソケイヘルニア手術（3日）

### 3 安心・安全の確保

#### (1) 防災対策

防災安全委員会及び保健食事委員会により施設内の安全衛生面の点検を実施した。

また、防災訓練については、総合防災訓練、夜間想定訓練などを含め、毎月1回実施するとともに、職員の情報伝達訓練を行った。

#### (2) 交通事故防止

毎朝の登校指導等とおして、児童に交通ルール遵守の習慣を身につけられるよう支援し、交通事故防止に努めた。

#### (3) 防犯体制の強化

小学生の登下校の引率や見守り、自転車登校の中高生に対しては注意喚起を行い、登下校時の安全を確保した。また、防犯ブザーの携行を促し防犯意識の高揚を図った。

### 4 利用者支援

#### (1) インターンシップ事業

児童の退所後の自立を促進するため、施設周辺の協力企業と連携して児童の会社見学及び職場体験を実施した。

職場体験参加児童数(人)	参加延べ日数(日)	受入企業数(社)
8	26	6

#### (2) 児童自立サポーターズによる就職支援事業

民間企業OBで構成するサポーターズの協力により、模擬面接の実施や社会人としての心構えの指導など就職の支援をした。

模擬面接延べ人数(人)	社会人としての心構え指導人数(人)
27	4

就職・進学状況

	高校3年生入所者数(人)	合格者数(人)	割合
就職	4	4	100%
進学	1	1	100%
計	5	5	100%

(3) 中学校卒業生8人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考
全日制高等学校	男 1	県立岩槻北陵高等学校	在園
	女 1	県立岩槻北陵高等学校	在園
	男 1	県立春日部工業高等学校	在園
	女 1	県立鴻巣女子高等学校	在園
	男 1	県立宮代高等学校	在園
	男 1	県立春日部特別支援学校	在園
	女 1	県立春日部特別支援学校	在園
	男 1	県立さいたま桜高等学園	在園

(4) 高等学校卒業生5人の進路状況

区分	卒業生(人)	内 訳	備考
就職	男 1	塗装会社	退所
	男 1	製紙原料会社	退所
	男 1	家電販売店	退所
	男 1	就労継続支援B型事業所(生活ホーム利用)	退所
進学	男 1	拓殖大学	退所

(5) 退所児童に対するアフターフォロー事業

施設で対応する窓口を明確にし、退所後の児童の状況の把握、相談や課題の解決などの支援を行った。

(児童養護施設)

(回)

相談者	アフターフォロー実施内容						小計	本人以外計	合計
	電話	来園	勤務先訪問	家庭訪問	その他				
					メール	その他			
退所児童(本人) (92人)	172	92	2	8	54	125	453	145	598
本人以外	保護者	42	7	0	0	0	49		
	児相	37	3	3	0	0	43		
	職場	9	0	0	0	0	9		
	その他	38	0	0	2	2	44		

(乳児院)

児童数	回数
5人	7回

(6) 心理療法の実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士による心理療法を行った。

(児童養護施設)

区分	実人数(人)	延べ回数(回)	職員面接(回)
精神・神経科	10	68	101
臨床心理士等	26	765	193

(乳児院)

区 分	実人数(人)	延べ回数(回)	職員面接(回)
臨床心理士等	17	295	72

(7) ホームステイ事業の状況

家庭生活経験の少ない児童に対し施設独自のホームステイ事業を行い、家庭生活の体験をとおして生活習慣や社会性が身につくように支援した。

児童数(人)	参加延べ日数(日)
3	35

(8) ふれあい里親の状況

児童が夏季・冬季の休みを利用して社会福祉協議会が実施する「ふれあい里親」宅に宿泊体験し、受入れ家族の理解のもと地域との交流を図った。

参加児童数(人)	参加延べ日数(日)
1	2

(9) 主な行事の実施状況

月	実施事項等
22.4	サッカー招待、野球招待
5	鯉のぼり掲揚、レクリエーション大会、サッカー招待、野球招待
7	宿泊旅行(～8月にかけて各棟で)
8	球技大会
10	バーベキューボランティア
11	七五三
12	ラーメンボランティア、クリスマス会、餅つき
23.1	初詣
3	ひな祭り、蕎麦ボランティア、卒園行事(文集作成、旅行、祝う会)

(10) 乳児院

ア 乳児の支援

今年度は、家庭復帰を目指し親子訓練室を使用しながら、面会・外出・外泊それぞれのステップにおいてきめ細かい支援を実施した。

イ 里親委託

家庭引取りが難しい乳幼児については、児童相談所と連携し里親委託に向けて調整した。その結果、児童2人が里親委託となった。

(11) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック  
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」  
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育  
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

## 5 地域社会との共生

### (1) 地域住民との交流

- ア 地域の自治会との懇談会を通じて施設運営への理解を進め、園主催行事への協力を得た。
- イ 地域の学校と連携し、清掃作業、廃品回収及びPTA活動等にも職員が参加した。

### (2) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)		主 な 内 容
児童養護施設	乳児院	学習、余暇、行事、理髪、環境整備
782	218	

### (3) ショートステイ事業の受け入れ (さいたま市との契約)

児童養護	
3人	10日

### (4) 実習生の受入れ

#### ア 児童養護施設

区 分	実人数 (人)	延べ日数 (日)
保育士実習	119	1,339
社会福祉士実習	12	144
計	131	1,483

#### イ 乳児院

区 分	実人数 (人)	延べ日数 (日)
保育士実習	16	172

### (5) 見学者の受入れ (延べ人数)

児童養護施設	乳児院
165人	36人

### (6) 相談支援事業

障害者相談支援事業 (さいたま市事業)

(件)

訪 問	外 来	電 話	その他
497	2,250	3,033	383

※ 「その他」は、相談者への同行など

## 6 施設・設備の維持管理

### (1) 生活環境の改善と児童の安全の確保を図るため、以下の工事を実施した。

児童養護施設	空調屋外冷媒保温修繕工事、網戸・クロス等内装・木製建具の修繕
乳児院	屋上防水改修工事、非常通報機新設

### (2) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

### (3) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

## 7 職員研修

- (1) 事例研究会や児童虐待に係る研修を実施した。
- (2) 県立児童養護施設合同の研修会を開催した。

## 5 花園

### 1 概要

- (1) 利用者の特性に応じた支援の実施  
利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者 の特性に応じた支援を行った。
- (2) 重度障害者の支援  
強度行動障害など重度の利用者に対し、生活支援を実施した。
- (3) 在宅障害者の支援  
短期入所の受入れなどにより障害者の在宅生活を支援し、地域貢献を推進した。
- (4) 新体系移行  
障害者自立支援法に基づく新体系移行を進め、平成23年4月1日から障害者支援施設に移行した。

### 2 利用者状況

- (1) 入退所の状況 (人)

施設種別	性別	定員	前年度末	入 所	退 所	年度末
知的障害児施設	男	—	14	2	2	14
	女	—	14	3	2	15
	計	30	28	5	4	29
知的障害者更生施設	男	—	52	1	1	52
	女	—	39	1	2	38
	計	90	91	2	3	90
計	男	—	66	3	3	66
	女	—	53	4	4	53
	計	120	119	7	7	119

- (2) 退所の理由 (人)

施設種別	区分	地域移行	死亡(病気)	その他	計
知的障害児施設		0	0	4 (家庭引取り2、成人施設利用1他施設1)	4
知的障害者更生施設		0	2	1 (他施設1)	3
計		0	2	5	7

- (3) 知的障害者更生施設 障害程度区分 平成22年3月31日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分A	52	34	86	95.6%
区分B	0	4	4	4.4%
区分C	0	0	0	0.0%
合 計	52	38	90	100.0%

- (4) 知的障害者通所授産施設 障害程度区分 平成22年3月31日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分A	4	3	7	46.7%
区分B	3	3	6	40.0%
区分C	1	1	2	13.3%
合 計	8	7	15	100.0%

## (5) 利用者の知能指数

平成 22 年 3 月 31 日現在 (人)

	性別	測定不能	I Q		I Q		I Q		未測定	計
			19 以下	20~34	35~49	50 以上				
知的障害児施設	男	0	0	0	2	1	8	11		
	女	0	0	2	3	2	11	18		
	計	0	0	2	5	3	19	29		
知的障害者更生施設	男	1	4	12	4	0	31	52		
	女	0	4	9	7	6	12	38		
	計	1	8	21	11	6	43	90		
知的障害者通所授産施設	男	0	0	3	1	0	4	8		
	女	0	1	0	0	0	6	7		
	計	0	1	3	1	0	10	15		
計	男	1	4	15	7	1	43	71		
	女	0	5	11	10	8	29	63		
	計	1	9	26	17	9	72	134		
割合		0.8%	6.7%	19.4%	12.7%	6.7%	53.7%	100.0%		

## (6) 通学状況

学年	本庄特別支援学校												合計	
	小学部					中学部				高等部				
	1年	2年	3年	4年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年		小計
男	0	1	2	0	3	0	1	0	1	2	0	3	5	9
女	0	1	0	1	2	1	3	2	6	3	0	0	3	11
計	0	2	2	1	5	1	4	2	7	5	0	3	8	20

学年	花園小学校				花園中学校				合計	在籍合計
	3年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計		
男	1	0	0	1	0	0	0	0	1	10
女	0	1	1	2	0	0	2	2	4	15
計	1	1	1	3	0	0	2	2	5	25

## (5) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

科目 区分	精神科	内科	外科	眼科	耳鼻科	婦人科	歯科	皮膚科	健康診断	計	
	回数	1,380	861	44	56	61	55	136	9		191
内訳	嘱託医	1,380	839	0	50	61	50	0	0	191	2,571
	その他	0	22	44	6	0	5	136	9	0	222
入院(件)	1	3	1	1	0	1	0	0	0	7	

### 3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに7月に総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

### 4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

高齢化に伴い農園芸班等の活動が困難となった利用者を機能訓練班に所属変更するなど、日中支援内容を見直し個々の状況に対応した支援を行った。

- (1) 日中支援の状況（入所利用者と通所利用者の合計、複数参加あり） (人)

	機能訓練班	軽作業1班	軽作業2班	農園芸班	リサイクル班	計
男	8	18	5	9	12	52
女	20	5	8	1	4	38
計	28	23	13	10	16	90

- (2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等
22.5	彩の国ふれあいピック大会参加
7	七夕祭り
8	児童外出、園内レクリエーション、地域ゴミ拾い参加
10	彩の国ふれあいピック大会参加
11	ふれあいの集い
12	年末お楽しみ会
23.1	新年会
3	ひな祭り

- (3) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック  
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」  
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育  
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

### 5 地域社会との共生

- (1) 短期入所

在宅の心身障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入件数(件)	延べ人数(人)
知的障害児施設	37 (7)	359
知的障害更生施設	77 (15)	847
計	114 (22)	1,206

※ ( ) 内は、日中一時支援事業

(2) ケアホームの運営

平成22年3月31日現在

ケアホーム名称	定員(人)	利用人数(人)
「アパートメント花園」	7	7
「グループホーム小前田」	4	4
計	11	11

(3) ボランティアの受入れ

受入延べ人数(人)	主な内容
158	衣類補修、環境美化、利用者支援

(4) 実習生の受入れ

区分	実人数(人)	延べ日数(日)
保育士実習	90	1,014
社会福祉士実習	3	58
計	93	1,072

(5) 見学者の受入れ

受入延べ人数(人)
144

## 6 施設・設備の維持管理

- (1) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。
- (2) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

## 7 職員研修

- (1) 関係機関が開催する専門研修に参加し、支援能力の向上に努めた。
- (2) 危機管理能力向上のためヒヤリハット及び事故報告を基に集団討議を開催し、日常業務での意識付けを行った。

## 6 あげお

### 1 概要

- (1) 利用者の特性に応じた支援の実施  
利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。
- (2) 重度障害者の支援  
強度行動障害など重度の利用者に対し、生活支援を実施した。
- (3) 在宅障害者の支援  
短期入所の受入れなどにより障害者の在宅生活を支援し、地域貢献を推進した。

### 2 利用者状況

- (1) 入退所の状況 (人)

施設種別	性別	定員	前年度末	入 所	退 所	年度末	
障害者 支援施設	入 所	男	—	4 3	0	0	4 3
		女	—	3 9	1	1	3 9
		計	8 0	8 2	0	0	8 2
	通 所	男	—	1 1	0	0	1 1
		女	—	1 2	0	1	1 1
		計	2 0	2 3	0	0	2 2
計	男	—	5 4	0	0	5 4	
	女	—	5 1	0	0	5 0	
	計	1 0 0	1 0 5	1	2	1 0 4	

- (2) 退所の理由 (人)

施設種別	区 分	地域 移行	死亡 病気	その他		計
障害者支援施設	入所	0	0	1 (他施設に入所)		1
障害者支援施設	通所	0	0	1 (本体施設に入所)		1
計		0	0	2		2

- (3) 障害者支援施設 障害程度区分 平成 22 年 3 月 31 日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分 6	2 8	1 6	4 4	5 3.7%
区分 5	1 2	1 4	2 6	3 1.7%
区分 4	3	9	1 2	1 4.6%
区分 3	0	0	0	0%
合 計	4 3	3 9	8 2	1 0 0.0%

- (4) 障害者支援施設 (通所利用者) 障害程度区分 平成 22 年 3 月 31 日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分 6	3	1	4	1 8.2%
区分 5	1	1	2	9.1%
区分 4	5	6	1 1	5 0.0%
区分 3	2	3	5	2 2.7%
合 計	1 1	1 1	2 2	1 0 0.0%

(5) 利用者の知能指数 平成 22 年 3 月 31 日現在 (人)

	性別	測定不能	I Q				未測定	計
			19 以下	20~34	35~49	50 以上		
障害者 支援施設 (入所)	男	15	6	13	6	1	2	43
	女	9	7	13	5	1	4	39
	計	24	13	26	11	2	6	82
障害者 支援施設 (通所)	男	0	0	2	0	1	8	11
	女	0	0	3	5	1	1	11
	計	0	1	5	5	2	9	22
計	男	15	6	15	6	2	10	54
	女	9	8	16	10	2	5	50
	計	24	14	31	16	4	15	104
割合		23.1%	13.5%	29.8%	15.4%	3.8%	14.4%	100.0%

(6) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

科目 区分	精神科	内科	外科	眼科	耳鼻科	婦人科	歯科	皮膚科	健康診断	泌尿器 乳腺	計
	回数	670	277	125	54	30	0	631	38	239	
内 訳	嘱託医	395	209	68	12	0	0	0	239		923
	その他	275	68	57	42	30	0	631	0	9	1,150
入院(件)	7	7	3	1	0	0	0	0	0		18

3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに10月に総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況 (入所利用者と通所利用者の合計、複数参加あり) (人)

	生活班	軽作業班	手工芸班	農園芸班	陶芸班	受託加工班	ドライ パック	計	園内外実習等
男	18	16	0	6	7	8	4	59	外0 内3
女	10	15	5	3	5	9	9	56	外0 内3
計	28	31	5	9	12	17	13	115	外0 内6

※ 農園芸班を中心に牛乳パック再利用による押し花名刺の研究開発を行い、製品化に至った。

(2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等
2 2.5	日帰り旅行 東武動物公園 (白岡町)
6	日帰り旅行 ゆの郷 (さいたま市)
7	日帰り旅行 ゆの郷 (さいたま市)
8	夕涼み会
9	日帰り旅行 ゆの郷 (さいたま市)
	日帰り旅行 川の博物館 (寄居町)
1 0	日帰り旅行 鉄道博物館 (さいたま市)
	通所日帰り旅行 知水館 (東京都)
1 1	日帰り旅行 鉄道博物館 (さいたま市)
1 2	年末お楽しみ会
2 3.1	新年を祝う会
2	日帰り旅行 いちご狩り (菖蒲町グリーンセンター)
	日帰り旅行 いちご狩り (菖蒲町グリーンセンター)

(3) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック  
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」  
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育  
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) 短期入所

在宅の心身障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入件数(件)	延べ人数(人)
障害者支援施設	357 (295)	1,457

※ ( ) 内は、日中一時支援事業

(2) 相談支援事業

障害児等療育支援事業及び障害者相談支援事業を実施し、在宅の障害児・者を支援した。

ア 障害児等療育支援事業 (県委託事業) (件)

在宅支援訪問療育等指導事業	在宅支援外来療育等指導事業	施設支援一般指導事業
463	99	144

イ 障害者相談支援事業 (市事業) (件)

訪 問	来 所	電 話
482	102	886

(3) ケアホームの運営

平成22年3月31日現在

ケアホーム名称	定 員 (人)	利用人数(人)
「グループホームあげお」	7	7
「グループホームひらつか」	4	4
「グループホームふたつみや」	4	4
計	15	15

(4) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)	主 な 内 容
524	衣類補修、絵手紙サークル、音楽活動、グラウンドゴルフ、農園芸、手工芸

(5) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数 (人)	延 べ 日 数 (日)
保育士実習	65	737
社会福祉士実習	16	346
その他の実習	2	35
計	83	1,118

(6) 見学者の受入れ

受入延べ人数 (人)
104

## 6 施設・設備の維持管理

- (1) 一部の居室を畳から床に変えるなどの洋式化、照明器具の交換、必要な箇所への手摺り取付け等により、生活環境の改善に努めた。
- (2) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。
- (3) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

## 7 職員研修

- (1) 職員の資質向上を図るため、施設内研修（行動障害等利用者特性の理解、救急法・蘇生法・感染症防止対策・虐待防止対策・倫理綱領と行動基準・コミュニケーション・接遇等）を実施するとともに、施設内プロジェクトとして重度障害者の摂食嚥下・食事支援に関する検討を行った。
- (2) 適切な支援の提供と業務遂行能力を高めるため施設支援計画の作成時や支援場面において上位・経験職員による個別指導を実施するとともに、必要に応じて助言・指導が行えるよう個別研修体制を整え、正規職員と契約職員相互の資質向上に努めた。